

絵本 Vol.2

いいね!

今回の「いいね!な絵本」は

『恐竜 トリケラトプスとダスプレトサウルス』

黒川みつひろ 作・絵
小峰書店



今回のいいね!な絵本は『恐竜トリケラトプスとダスプレトサウルス』です。1992年にスタートしてから、今年で25周年を迎える大作「トリケラトプス絵本シリーズ」の最新作になります。作者の黒川みつひろさんには、永く愛される作品づくりへのこだわりや、絵本を通じて伝えたいメッセージなどを伺いました。ロングセラーを一緒に作ってきた編集担当の小林美香子さんや、印刷を担当している丹下善尚さんとともに25年を振り返ります。

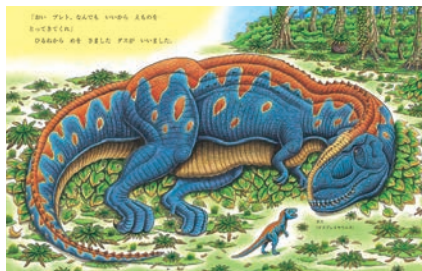


黒川みつひろさん

地球や自然の不思議さを感じ取っていただきたい

「トリケラトプス絵本シリーズ」の特徴や作品への想いを教えてください。

25年もの間、たくさんの人に愛され続ける「トリケラトプス絵本シリーズ」。恐竜絵本というジャンルを切り拓いた作者の黒川みつひろさんに、絵本作家になったきっかけや、永きにわたり読者を魅了してきた恐竜たちの魅力を伺いました。



恐竜絵本作家になられたきっかけを教えてください。

25年もの間、読者に愛される理由を教えてください。

1983年の3月に上京してから雑誌のイラストの仕事をしていて、恐竜の取材で国立科学博物館の新宿分館(当時)に入りするようになり、小島郁夫先生(古生物学者/2015年没)のもとに通うようになって、用事が無くても行くようになり、そのうちどうして絵本を描き始めたのか、恐竜の進化を1冊にまとめた絵本のアイデアを考えた。小島郁夫先生に協力をお願いしました。おかげで1987年に最初の恐竜絵本ができました。

作品づくりを通して伝えたいテーマは何ですか？

恐竜を通して地球や自然の不思議さを感じ取っていただきたい。そして、恐竜も含めて生き物の命の尊さを感じ取れるような本にしたい。絵本なので、相手の立場を考慮される。温かみのある想像性を育みたい。トリケラトプスを主人公に選んだのは、逃げることを第一に進化させた草食恐竜の中で、トリケラトプスだけは戦えるように角も生え、身体もガッシリして、頑丈に作られているからです。困難に出会っても逃げずに戦うということ。子どもたちが共感されているのかなあと、諦めずに自分を信じて戦う、というね。

いいね!な絵本を描いた人

黒川みつひろさん



恐竜絵本作家
主な作品に「恐竜の大陸」シリーズ、「たたかう恐竜たち」シリーズ(小峰書店)など。
上記の「トリケラトプス絵本シリーズ」は2017年現在、34冊まで刊行中。

黒川先生、ありがとうございます。

僕自身がこういう仕事をさせてもらって、まず子どもたちに感謝。恐竜たちにも感謝。恐竜を生んでくれた地球の自然にも感謝。子供たちには、その自然を大事にするような大人に育ってほしい。

25年を振り返って読者の皆様へメッセージをお願いします。

恐竜については近年では鮮やかな色をしていったということが分かっていて、いろんな色を使いたいというのと、情景もキレイに描きたい。入稿時には強調したいところなど、丹下さんと直接会って色の出し方を打合せしています。その方がお互いに納得できる。

先生の描く恐竜たちは色鮮やかですが、色についてのこだわりを教えてください。

口から描いている面白さだと思います。草食恐竜も肉食恐竜もお互いに存在を認め合っている。敵役も悪い恐竜ではなく自然の一部ですからね。





子どもたちから お手紙がほぼ毎日届くんです!

小林美香子さん



おかげさまで、「トリケラトプス絵本シリーズ」は25周年を迎えました。その間に主人公のリトルホーンは成長し、本の判型なども変化していますが、変わらないこともあります。それは、黒川先生の作品へのこだわりと、美しい印刷、そして、読者の子どもたちからお手紙がほぼ毎日届くこと。これからも、応援をよろしくお願いいたします!

いいね! な絵本を編集した人

小林美香子さん

小峰書店編集者
担当作に『コウノトリのコウちゃん』(かこさとし)、『かわうそ3きょうだい』シリーズ(あべ弘士)、『しんかいたんけん! マリンズノー』(山本幸)、『だっこ』(鈴木まもる)など多数。



黒川先生の 恐竜絵本の世界

黒川先生が描いた「トリケラトプス絵本シリーズ」は、25年間で実に34作。草食恐竜と肉食恐竜の戦い、友情や家族愛といった、子どもたちの感性を育む内容にあふれた壮大な絵本シリーズです。黒川先生の描く恐竜たちの世界は、まだまだこれからも続いていきます。



トリケラトプス
絵本シリーズ最新作

『恐竜トリケラトプスと ダスプレトサウルス』

25周年にあたる今年発売された最新作!
ダスの息子、プレトが繰り広げる大冒険劇!

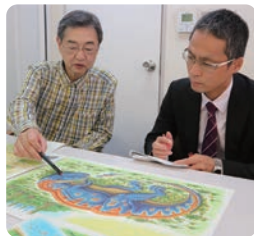


皆が完成イメージを理解し合っている

丹下善尚さん

黒川先生、編集の小林さん、皆が完成イメージを理解し合っている。そのおかげでうまくいっている部分があると思います。「一緒にやらせていただいている」という感覚を持って、橋渡しの仕事をき

「トリケラトプス絵本シリーズ」を長く担当されて感じていることを教えてください。



結構お時間割っていたので、今では前よりは、任せていただいていると感じています。

黒川先生の場合、先生の頭の中で色のイメージができています。そのイメージを表現するために細かな指示が入ります。その際、不自然にならない様に一枚の絵としてみるようにしています。先生の意図を聞いて、気になる点については打合せの場で確認させていただいています。そのやり方で積み重ねてきたので、今では初校から精度の高いものをお出できるようなになりました。最初に担当させていただいたときは、先生の意図を反映させるために細かく伺いましたね。

「トリケラトプス絵本シリーズ」について教えてください。

編集の方、作家先生、デザイナー、カメラマンといったお客様が望まれていることを表現するために、現場への橋渡しをする仕事です。お客様から与えられた条件の中で高品質な製品をつくるために現場と協力して作業を行っています。

いいね! な絵本を印刷した人

丹下善尚さん

【プロフィール】
図書印刷株式会社所属
プリンティングディレクター
絵本をはじめ、印刷物における様々な書籍の色調の再現を手がける。



丹下さん、ありがとうございます。

主人公が変わらずこれだけ続けている作品は少ないと思います。誰でも出来ることではないと思いますので尊敬しています。そういう作品に携わらせていただいているのはありがたいことです。ので、今後もご指名いただけます様に頑張らせていただきます。

25周年を迎える本作にメッセージをお願いします。

黒川先生のイメージを再現しています。



恐竜の鮮やかさ、情景のキレイさを出す為に網点のバランスをとって調整しています。又、柔らかさや立体感のバランスを考え

ちんとさせてもらっていることに感謝です。「トリケラトプス絵本シリーズ」での技術的なこだわりを教えてください。



『恐竜トリケラトプスとダスプレトサウルス』のお求めはお近くの書店等にお問い合わせください。



絵本っていいね!

